

## 2026年アジア・アジアパラ競技大会の選手村にクルーズ船を活用する記事の雑感

会員 柴田典光

貨物量・貿易黒字額 日本一を誇る名古屋港ですが、2026年アジア・アジアパラ競技大会の期間中に名古屋港にクルーズ船を停泊させて選手村の機能の一部を担わせる案を検討していることが報道されました。

クルーズ船を選手村として活用するにはアクセスが良いガーデンふ頭に着岸するのが理想的ですが、名港中央大橋(桁下が55m)を潜らなければならずマストの先端までの高さが51m以内であることが必要で7万トンクラスが限界です。

私の記憶では今までガーデンふ頭に着岸したクルーズ船で最大は総トン数77,000トンのサン・プリンセス(現在のピースボート)です。

金城ふ頭に長期間着岸する場合、自動車運搬船が頻繁に離着岸するので輸出予定の自動車搬入作業に支障をきたすことが必至です。

最近ではインバウンド観光客も増え、ホテル需要が旺盛の中で、選手を既存のホテルに分散して宿泊させるのは並大抵のことではなく、競技大会は一時的なものなので選手村を建設することなくクルーズ船を活用することは名案で切り札になることは間違いありません。

2020年の東京オリンピックの時には観客用の宿泊施設としてサン・プリンセス(総トン数77,000トン)、コスタベネチア(総トン数135,000トン)、MSCリリカ(総トン数65,000トン)などが予定されましたが、新型コロナパンデミックで計画倒れになったので、是非とも名古屋港で選手村のクルーズ船活用を実現して欲しいものです。



パシフィック・ワールド(元サン・プリンセス)



コスタ・ベネチア



MSC リリカ

\*写真は学会事務局が追加しました。